

成長実感！中3夏期強化合宿

毎年、文理学院では中3塾生全員参加の「夏期強化合宿」を行っています。その合宿に今年参加した生徒たちの中から、各地区を代表して合宿参加の感想や、後輩たちへの熱いメッセージを書いてもらいましたので、ご紹介したいと思います。

甲府南校（甲府市） 中山裕貴 くん（山梨大学附属中学校）

「21時間」…これは僕らが合宿で勉強をした時間です。自習時間を含めるとこれ以上に勉強したことになります。これくらい勉強すると普通は「休みたい」という気持ちが出てくると思います。でも僕は出てきませんでした。これは「心の支え」のおかげだと思います。僕にとってそれは「第一志望に合格する」という強い意志でした。すぐ隣にいる人が同じ高校を狙うライバルかもしれない。そう考えると「休みたい」なんて思えず、むしろ「休んでられない」と思うほどでした。やはり目標を立てると勉強がはかどるなと思いました。この合宿では学習面はもちろん、精神面も鍛えられました。なにより、受験生としての意識が強まりました。この合宿が与えてくれたものを大切に、残りの日々も頑張りたいです。笑顔で3月を迎えられるように…。

東桂校（都留市） 相川紘香 さん（東桂中学校）

授業開始が8時頃。夜は12時近くまで。その予定表を見た瞬間、思わず眉を顰めた。だがお遊びではないから基本的に無駄な時間はない。正直、苦痛でしかないと思った。ちなみに携帯はもちろん、トランプ等の持ち込みも禁止である。普段からスマホをよく使う私にとって、それが一番ストレスに感じるだろうと思っていた。しかし、まさに“馬にはのってみよ人には添うてみよ”であった。授業では緊張感がいつも張りつめてはいたが、決して心地悪いものではない。だからこそ私は、2日目の10時間にも及ぶ授業を苦に感じることはなかった。さらに、授業の合間に流れる先生のアナウンス放送はニュアンスが緩い。そういったちょっとしたことで笑えて、気持ちがほぐれた。

先生たちにも変わった人が多く、面白い。ふんわりとした雰囲気でも過ごした3日間は確かな実感があった。

中島校（富士市） 福島啓太郎 くん（富士中学校）

僕は、夏期講習が始まってから、文理で勉強する時間が増え、苦手な教科と向き合う機会も多くなりました。ですが、模試では失敗してしまい、思うような点数がとれませんでした。その時、心配してくれた小野先生と、三つの約束をしました。その中の一つに「合宿のクラス別テストで一位をとる」という約束がありました。僕は、その約束を果たすために、二日間とも夜の一時まで勉強しました。二日目の途中で体調を崩してしまいましたが、テストで良い点をとるという気合いで授業を一コマも休むことなく乗り切ることができました。自習の時間に、中島校以外の先生にもたくさん質問できたことは、貴重な体験となりました。そのおかげで、約束を果たすことができました。学調では、必ず成功し、志望校合格に向けて、常に目標を持って取り組んでいこうと思います。

長泉校（長泉町） 須藤ほのか さん（長泉北中学校）

3日間ずっと授業があるのは辛い時も多かったけど、自分の苦手なところを理解できたり、得意だと思っていたところも全然できていないことが分かったりして、本当によかったです。また他の校舎の人たちと一緒に勉強して、集中力や知識など自分よりすごい人がたくさんいることが分かり、いい刺激になりました。

自分の校舎の先生はもちろんですが、他の校舎の先生も明るい授業で、分かりやすく、自分の校舎の先生とは違った表現で授業をしてくださり、参考になることばかりでした。

合宿の最後に高校生の話も聞けて、今後どうすればよいか具体的にイメージできたこともよかったです。

合宿に行く前は辛そうなイメージしかありませんでしたが、参加して本当にいろいろな経験ができました。これからの受験勉強もここでの経験を生かして頑張っていきたいです。

唐瀬校（静岡市） 加藤ゆめ さん（静岡東中学校）

私が合宿で学んだものは、一つ一つの問題を最後まで解き切ることの大切さです。

合宿1日目の数学の時間に、難しい応用の問題が出されました。次の日の夜中1時までが期限で、やった人だけが先生の所へ持ってくるというものでした。私は難しくわからない問題があったら、今までは答えや解説を見るだけでそのままにしていました。でも、友達がその応用問題にチャレンジしている姿を見て、私も……と思い2日目に実行しました。友達に教えてもらいながら、何とか自分の力で答えにたどり着いた時、今までにない達成感がありました。3日目の数学のテストの時はその応用問題の解き方を参考にして問題を解きました。そして、自分の力で解き切った問題は頭の中に残るんだと知りました。

これから、私はどんな問題でも最後まで自分の力で解き切り自分の力にしていきたいです。

日常を超えた経験が、自己を逞しく成長させる。

文理には教育に対する理念・信念があります。



BUNRI GAKUIN

**知育
徳育
体育**

左にある文理学院の社章（ロゴ）はみなさん知っていますよね。そこにはどのような意味が込められているか、みなさんご存知でしょうか。ここでその意味を紹介しながら、文理学院の教育理念の一端を書いてみたいと思います。

まず、円形ですが、それには「無限」や「不偏」といった意味が込められています。そして円の中にデザインされた人の形。「人を大切にする」、「人を育む」という意味と同時に、それぞれ「知育」・「徳育」・「体育」の意味があります。「学力を上げるだけではなく、人間性を育む」といった教育理念が文理の指導の根底にあります。それを象徴する社章（ロゴ）となっているわけです。知らなかったあ〜という生徒・保護者の方がほとんどではないでしょうか。

その中で「徳育」について書いておきましょう。年齢を重ねてくると、よく「徳を積む」という言葉を耳にします。品性や人格を高めるといった言葉でもあり、他者のために汗をかくといった意味合いもあるこの言葉が、実は生きていく中で一番重要なことです。徳には「陽徳」（人に感謝されるような表に現れるもの）と「陰徳」（人知れず行う善行）の2つがありますが、若いうちからそのような「徳を積む習慣」を身につけていってほしいと思います。

「具体的な徳の積み方」を通っている校舎の先生たちに教わってみるといいですよ！！

地区からの特別ニュース(^^)/【第3弾】

郡内地区だより

文理学院発祥の地、『郡内』。

昨年度は21年連続の『吉田高校理数科』最多合格者輩出を達成できました。高等部では4年連続の『東京大学』合格者を出すことができ、普通科生からも慶應・東京理科大学などの難関大学への合格者を出すことができました。この合格者たちの多くが、小学校・中学校時代から文理に通い、文理イズム『とことん』のもと『できるまで・わかるまで』を実践し勉強の辛さを感じながらも、『勉強の楽しさ』を我が物とし育ててきた生徒たちでした。卒業時に『私の母校は文理です』と言った生徒もおります。きっと全員がそんな気持ちなのでしょう。文理イズムを継承しながらも、よりよい学習環境づくりを進めながら『郡内文理、教師・スタッフ一同』頑張っております。

目先の目標だけでなく、長期的視野に立ち子供たちの行く先にある困難を乗り越えられる学力・知識を持ってもらいたい。大学入試改革、国内経済の不調、国家間の不協和音・緊迫…子供たちが遭遇するであろう「課題多い未来」。それに立ち向かう知恵を持った人間に成長してもらいたい。“一人ではないんだ、大切な仲間が周りにいる”ということ意識し、『人』として大きく成長してほしい。『文理学院』が勉強だけでなく生活面でも生徒を指導するのはこのためです。

先日の郡内中3合宿でもその指導は多々見られました。また、生徒も『仲間』を意識し、『頑張る』を一人ではなく『仲間』と二倍・三倍の『頑張る』に変え努力していました。

今年度もいよいよ、後半戦への突入です。さて、どんな結果が見られるか。一期一会、生徒の『頑張る』に私たちもそれを上回る『頑張る』で応えていく。早いですが、『春』が、『桜』が待ち遠しい。

次回は静岡県「御殿場地区だより」です！！

9月入塾 受付中です！

毎年、夏期講習を終えた9月に入塾してくる生徒たちがいます。特に中学生ですが、夏休み明けのテストを終えて通塾や転塾を決める生徒たちです。「夏休み明けからの通塾…」いいと思いますよ。9月～12月には学校内テストも目白押しですし、学習内容も難しくなります。また、受験生は受験校を決定する時期になりますからね。

9月入塾の場合は「入学金が無料」ですし、9/16以降からの通塾の場合は「9月分授業料が半額」となりますから、学校でのテスト結果を見てからの入塾でもいいと思いますよ。

みなさんの周りで「9月からは文理で勉強してみようかな」なんて考えているお友達やお知り合いがいましたら、ぜひご紹介いただきたいと思います。

実りの秋、収穫の秋。

文理でさらに大きく成長しよう！

とことん徹底指導！
とことん学力向上！
とことん人間教育！
とことん安心価格！

**9月入塾
入学金無料**

文理だより編集後記

戦後72年を迎えた今年、私は8月6日を広島で迎えました。早朝から「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列したわけです。私のような子どもたちと接する仕事をしていると、やはり子どもたちが将来的に戦争の惨禍に巻き込まれないかという漠然とした心配があります。とりわけ今年は戦争が勃発するのではないかと思わせる事件・事故が多発しています。差別や偏見、領土問題、報復などをきっかけとして起こる戦争ですが、そこで使用される兵器の中で、やはり一番の非人道的兵器は「核兵器」です。その全面禁止をうたった「核兵器禁止条約」が去る7月7日に採択され世界の約1/4にあたる50か国が批准したわけですが、核保有国やその関係国の多くは話し合いのテーブルにすらつかなかったのが現状です。大きな前進を見た半面、まだまだ課題山積の「地球号」ですが、一人の大人としてできる範囲のこと、言葉にしていかななくてはならないことは今後も「子どもたちの明るい未来」のためにしっかりと行っていこうと思います。

そして、塾生たちには「今が当たり前」と思わずに日々過ごしてもらいたいと思います。実は「当たり前」なんてことはこの世の中にはないのです。周りの人やもののお陰で「日々、生かされている自分」を自覚して生活していくことが大切だと思います。文理に通えることも、学校へ行けることも、毎日食事が摂れることも…「平和と周りの支えがあるからこそ！」ですよ、塾生諸君！！【勤】

想像力と行動力、それが成功の鍵だ。